



学校だより

7月号

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuenhigashi/>

正確に伝え、正しく受け取る

副校長 加藤 純

3月から新型コロナウイルス感染拡大防止策として一斉臨時休業が続き、静まり返っていた学校でしたが、6月より段階的な学校再開となり子どもたちの声が戻ってきました。明日からは給食も再開され、午後の授業がスタートです。しかし、人と人との間隔をあげたり、給食の際にグループを作らず無言で食べたりするなど、これまでの学校生活とは違う面も多く、大人も子どもも新しい生活様式に慣れるまで、もう少し時間がかかりそうです。

さて、現在のわたしたちは緊急事態宣言発令や全国の学校への一斉休業要請など、数年後の教科書に掲載される事態に直面しています。この間、報道等でよく耳にしたのが「クラスター」「オーバーシュート」などの新しいカタカナ用語です。「集団感染」「爆発的患者急増」などの言葉であればその言葉の意味をある程度想像できますが、聞きなれないカタカナ用語が飛び交う状況に意味がよく分からず、不安を感じた人も少なくないと思います。また、「ステイホーム」「自粛」の長期化により、「普通の状況ではない」とか「普通の生活に戻りたい」といった言葉も多く聞かれました。この『普通』って？と改めて思い、少し調べてみました。

- 広辞苑で調べてみると、『普通』・・・①ひろく一般に通ずること。
②どこにでも見受けるようなものであること。
「一般」、「並」(なみ)。
- 『普』という漢字の成り立ち・・・旧字体は『𠂔』で、太陽が隅々まで照らす様子を表し、意味はひろく行きわたる、当たり前。

調べてみて、「当たり前」とか「一般」「並」という意味であることを再確認しました。今回の事態に直面する前は、「普通過ぎる」とか「普通じゃつまらない」のように『普通』という言葉をおそらくいい意味で使わない状況がありました。ところが3ヶ月たった今、報道等で使われている『普通』という言葉へのイメージには変化が見られます。『普通』『当たり前』なことへの感謝の意味が込められているのです。

自分に与えられた環境や社会情勢によって言葉のもつ意味以上に、わたしたち人間は敏感に言葉のイメージを変化させているのかもしれませんが、だから、聞きなれない新しい言葉や専門用語が多くなると不安に感じるのだと思いました。

『正確に伝え、正しく受け取る(理解してもらう)』これは信頼関係を築く基本です。今後、新しい生活様式としてWEB会議やオンライン、メールやSNSの重要度はますます高まってくることが予想されます。だからこそ正確に伝え、正しく受け取る(理解してもらう)ために言葉の選択が重要なのです。

新しい生活様式で生きていく子どもたちにも『正しく伝え、正しく受け取る(理解してもらう)』力を育ませることはとても大事になってきます。学校・家庭・地域の大人たちが言葉を大事にしている姿が、子どもたちの良きお手本です。これまで以上に『正しく伝え、正しく受け取る(理解してもらう)』ことができる、そんな緑園東小学校でありたいと思っています。

7月も保護者の皆様には、引き続きお子様の健康にご留意いただき、ご協力をお願いいたします。また、今後もホームページで子どもたちの様子について掲載していきますので、ぜひご覧ください。